

登録コード	L2232600	開講年度	2026				
担当教員	葛西 敬之			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化特論						
英文授業名	German Language Culture: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文202演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			多様な文化現象を外国語も活用しつつ批判的に分析できる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			多様な文化現象を批判的に分析でき、また論理的に報告することができる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			多様な文化現象を批判的に分析でき、また論理的に報告することができる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	文化・文学の批評に関するテキストの講読とそれを踏まえてなされるドイツ語圏の文化・文学を対象にした学生発表とディスカッションから構成される。						
授業計画	導入後、第三回授業までは講義形式をとる。第四回目からは教科書を各回一章ずつ輪読する。担当者は担当範囲のスライドを作成し、適宜、解説や補足、疑問点を明らかにし、全体で議論を行う。この作業を通じて得られた知見をもとに、その後の個人発表では任意のドイツ語圏の文学作品の分析を行う。期末レポートでは受講者は発表・ディスカッションで認識した問題をさらに発展させる。 第1回 導入 第2回 第一章（教員による講義） 第3回 第二章（教員による講義） 第4回 第三章 第5回 第四章 第6回 第五章 第7回 第六章 第8回 第七章 第9回 第八章 第10回 第九章 第11回 第十章 第12回 個人発表 第13回 個人発表 第14回 個人発表 第15回 個人発表 および総括議論、授業アンケート なお授業の性質上、受講者数によって多少予定が変わることがあります。また、数回程度オンデマンド授業を予定しています。						
成績評価の方法	発表及び議論への参加度60%、期末レポート40%の比率で総合的に評価します。						
成績評価の基準	発表及び議論への参加度に関しては、発表内容が過不足なく他者に理解可能な形で報告でき、かつ議論において自らの意見を論理的に表現できればその水準にあるとする。報告や議論において加えて、多様な視点から対象を検討した上で自らの意見を論理的に表現できれば卓越しているとする。期末レポートでは、授業で扱われた内容から自分なりの視点で仮説を立て、説得的な論述によって証明されていれば卓越しているとし、その際、形式や表現に瑕疵があれば、かなり上にあるとする。自分なりの視点で立てられた仮説が証明されていれば、やや上にあるとする。授業で扱われた内容を踏まえて自分なりの視点が立てられていれば、水準にあるとする。						
事前事後学習の内容	個人発表で使用する資料は3日前迄に共有する。発表者以外は事前にそれ（およびそこに挙げられている参考文献）に目を通し、どのような質問をすればより生産的な議論になるか考えておくこと。						
履修上の注意	ドイツ語文法の基礎的な知識があることが望ましい（必須ではない）。ディスカッションにおいては毎回最低一回は発言することが義務づけられている。						
質問、相談への対応	メールにて受け付ける（メールアドレスはeALPSに記載）。						
教科書	石原千秋『読者はどこにいるのか 読者論入門』河出書房新社、2021年、950円＋税						
参考書	ハインツ シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』（同学社）2008年						

参考書	マティアス・マルティネス『文学の森へ 物語理論入門』（法政大学出版局）2006年 小倉孝誠編『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
-----	---